

1 本年度の重点教育目標

子供を主語に、シンプルに、わかりやすく

2 本年度の取組の重点

- ① 学力向上のために組織としてカリキュラム・マネジメントに努める。
- ② 学習指導の工夫・改善や支援の充実を図るために日常授業の改善に努める。
- ③ いじめのない学校のために児童の自主的、実践的な態度や道徳性の育成に努める。
- ④ 児童の健全育成のために健康で安全・安心な生活の充実に努める。
- ⑤ 特別な支援や配慮を要する児童への指導のために教職員の資質能力の向上に努める。
- ⑥ 学校組織を機能させ、家庭・地域との連携を図り、開かれた学校づくりを推進する。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		概況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①教育課程	・学校の教育目標具現化を目指す教育課程編成に努める。	a	・教育目標及び重点教育目標の具現化を目指した教育課程の編成・実施・評価、及び改善に努めた。	a	A	
②教職員の資質・能力の向上	・校内研修を充実させ、互いに磨き合いながら資質・能力の向上に努める。	a	・日常の授業改善にいきる校内研修を推進し、主体的・対話的で深い学びの実現に向け実践を積み重ねた。 ・ICTを積極的に活用しながら教科の特質に応じた指導に努めた。 ・一人一人の子供を主語にした授業づくりへ向けて、「新しいかたちの学び」への転換を図った。	a	A	
③学力向上・特色ある教育活動	・地域の特性を生かした特色ある教育活動の推進に努める。	b	・基礎・基本の定着、ねばり強く学ぶ態度の育成について、課題が見られる。さらなる工夫・改善を行う。 ・地域の特性を生かしたカリキュラム・マネジメントをしていく必要がある。	b	A	
④組織力の向上	・教職員の経営参画意識の高揚に努めるとともに、組織体としての活性化を図る。	a	・重点教育目標の達成に向け、経営参画意識の高揚に努めた。職員の共通理解の下、業務改善に取り組むことができた。	a	A	
⑤特別支援教育の充実	・専門性を生かし、特別な支援・配慮を必要とする児童への適切な指導に努める。	a	・特別支援コーディネーターを中心に、全教職員の共通理解により支援体制の充実に努めた。 ・函館市南北海道教育センター等の関係機関との連携を図ることができた。	a	A	
⑥地域とともに歩む学校づくり	・コミュニティースクールの取組を行い、地域・保護者と一体となって、信頼される開かれた学校づくりに努める。	b	・子供の変容する姿を通して地域や保護者の信頼に応える教育活動の推進を図ることができた。	b	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。